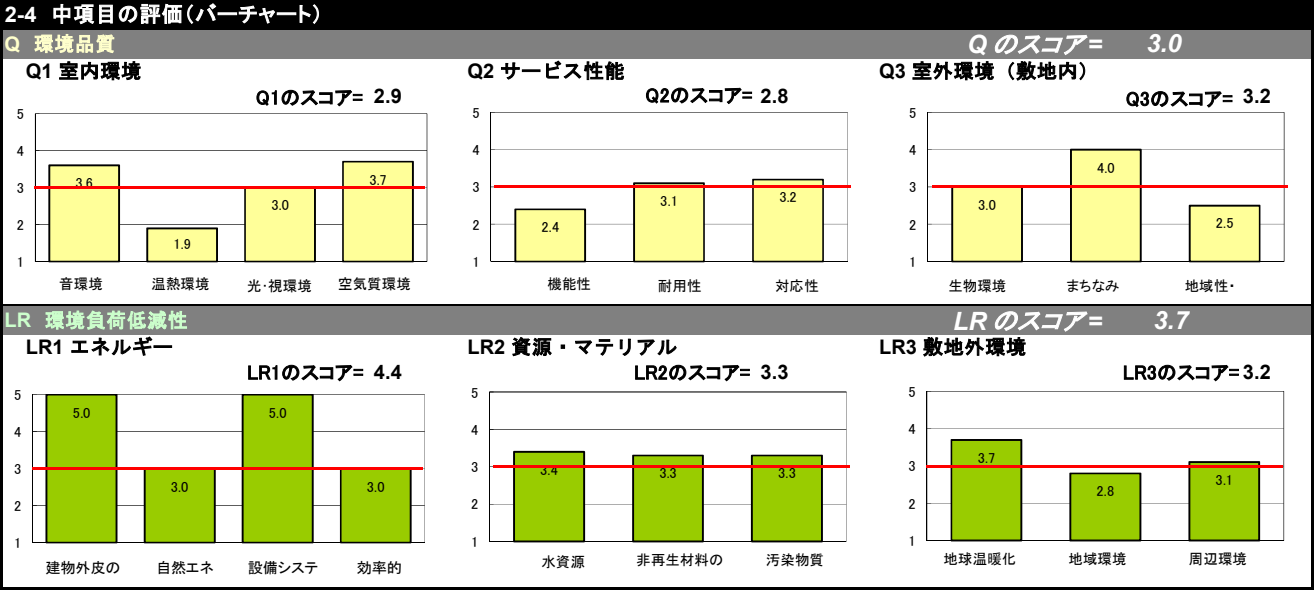
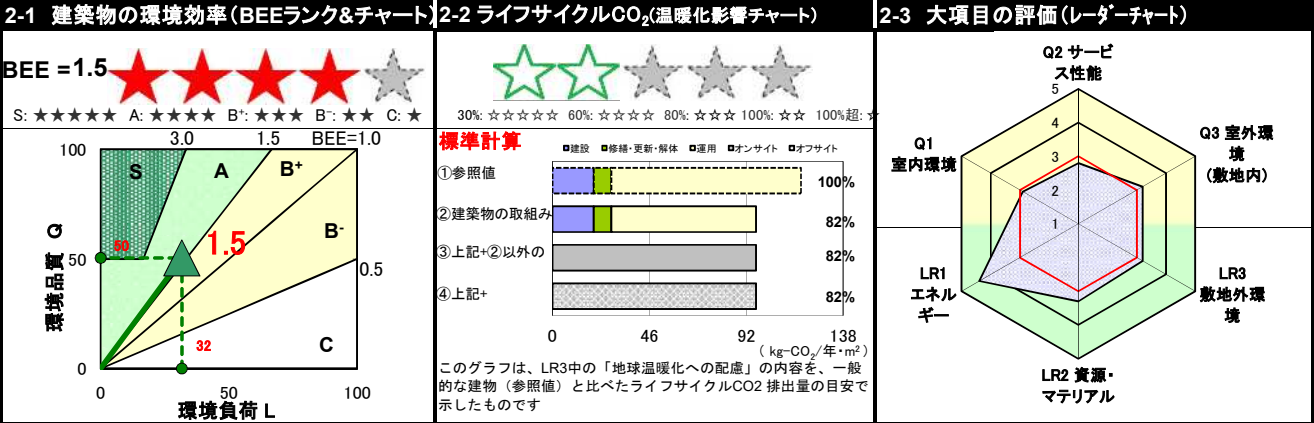


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	船明発電所西鹿島寮(仮称)新築工	階数	地上4F
建設地	静岡県浜松市天竜区二俣町鹿島字	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2024年9月17日
敷地面積	2,326 m ²	作成者	株式会社 安藤・間 一級建築士
建築面積	956 m ²	確認日	2024年9月17日
延床面積	2,546 m ²	確認者	株式会社 安藤・間 安藤・間



3 設計上の配慮事項		
総合	良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。また、高い外皮性能を計画し省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。	その他 特になし
Q1 室内環境	外皮性能として、住居部分日本住宅性能表示5-1断熱など性能等級等級4を超える計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内には適切に緑化を施すことで地表面温度上昇を極力抑える計画とした。
LR1 エネルギー	適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めるとともに、高効率の設備を採用し建築物の環境負荷低減を図った。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐輪場を設置して交通負荷抑制に努めた。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするように努めた。	
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上げが容易に分別可能な工法で施工するよう努めた。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要											
建物名称	船明発電所西鹿島家(仮称)新築工事				BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★		
2. 重点項目への取組み度											
重点項目		得点※/満点		取組み度			評価				
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)		3.7	/5				ふつつ				
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)		3.2	/5				ふつつ				
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)		2.3	/5				がんばろう				
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)		2.8	/5				がんばろう				
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)				評価 凡例		よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
3. 重点項目についての環境配慮概要											
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。						内訳対応項目					
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)						得点		3.7			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①住:性能評価5-1等級4を超える水準を満たす ②共用部分:2.5%以上、住居部分:2.0%以上 ③住:カーテン・庇によりグレアを制御 ④床:フローリング:20年・壁:ビニルクロス貼:20年・天井:ビニルクロス貼:30年 ④主な用途上位3種のうち、2種以上にB以上を使用し、Eは使用しない					Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
						Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
								3.2	3.2.1	③	昼光制御
						Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
									2.2.2	④	外壁仕上材の補修必要間隔
									2.2.3	④	主要内装仕上材の更新必要間隔
									2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔
									2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔
									2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)					Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑦住:強化外皮基準 ⑨BEI 0.80以下					LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
							2			⑧	自然エネルギー利用
							3			⑨	設備システムの高効率化
							4	4.1		⑩	モニタリング
								4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体と仕上材が容易に分別可能 ⑬押出法ポリスチレンフォーム保温板3種: ODP値=0・GWP値=3					LR-2	1	1.1		⑪	節水
								1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
									1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
							2	2.1		⑫	材料使用量の削減
								2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用
								2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
								2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
								2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
								2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
							3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
							3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
								3.2.2	⑬	断熱材	
								3.2.3	⑬	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LCCO2=80%					LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
						2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)						得点		3.2			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯耐震クラスA ⑰光ケーブルの採用 等					Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
									2.1.2	⑯	免震・制振性能
								2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
									2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
									2.4.3	⑰	電気設備
								2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
								2.4.5	⑰	通信・情報設備	
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)						得点		2.3			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳住:階高2.9m以上					Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
							3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
									3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
						Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)											
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)						得点		2.8			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉒良好な景観の形成を配慮している。 等					Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
							2			㉒	まちなみ景観への配慮
							3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
						LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
						LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)											